



(写真) Shutterstock “ベネズエラ国民のクレジットカード利用に関するアンケート調査結果を紹介”

クレジットカード利用調査

18年からインフレ収束のため融資を制限

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

2 024年2月 マドゥロ大統領は24年のベネズエラ経済成長率について、前年比8%増との見通しを示した。これは楽観的な見通しだろうが、多くの経済調査団体が同年のベネズエラ経済のプラス成長を予想。IMFは24年のベネズエラの経済成長率について前年比4%増と見込んでいる。

プラス成長の要因は様々だが、その要因の1つにクレジット（融資）の増加が挙げられる。本稿では現地メディア「Ultimas Noticias」が行ったベネズエラ人のクレジットカードの利用状況に関するアンケート調査について紹介したい。

現在のベネズエラ経済が安定した要因の1つとして融資の増加が挙げられるが、融資が増加した背景には物価の安定がある。

ベネズエラのインフレは為替レートと強く結びついている。そして、これまで銀行による過度なボリバル融資が為替レートの過度な変動、つまりボリバル安の一因と指摘されていた。

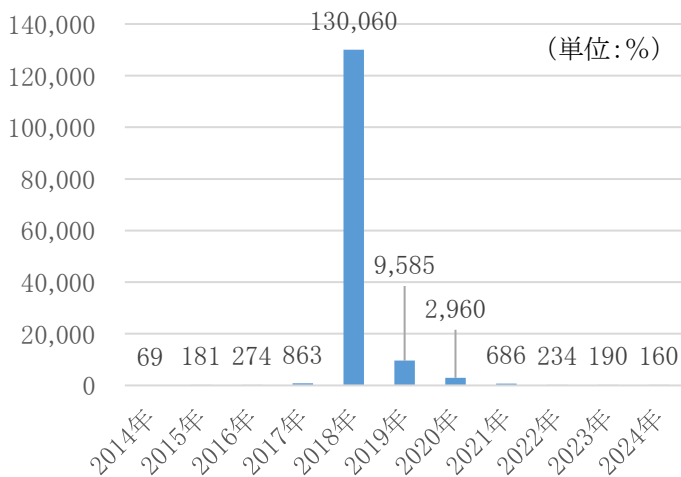
そのため、2018年後半に金融当局は、銀行の預金準備率（銀行が中央銀行に預けなければいけない資金。この金額が多いほど銀行の貸付能力が低下する）の引き上げを開始。2020年には預金準備率を93%まで引き上げた。

預金準備率の引き上げにより、銀行のボリバル融資が減少。

預金準備率の引き上げに加えて、「政府が歳入と歳出のバランスに気を配るようになったこと」「為替管理制度を放棄したこと」などを理由にベネズエラのインフレは収束していった。

以下は2014年～2024年のインフレ率の推移。

グラフ: ベネズエラのインフレ率推移(2014年～24年)



(出所)IMF(2024年4月版) ※2023年から暫定値

2014年～17年にかけてインフレ率は上昇していたものの、2018年に年率13万%という異常事態となった。

余談になるが、この異常なインフレは銀行の貸し出しだけが要因ではない。

一番大きな要因は、米国の経済制裁である。

2017年に米国はベネズエラに経済制裁を発動。制裁によりベネズエラの外貨収入は急激に減少した。

また、制裁によりベネズエラ中央銀行がドルを送金することが著しく困難になったため、ベネズエラ国内への外貨供給が止まり、国内の経済循環が滞った。

外貨とボリバルの需給バランスが大きく崩れたことで、為替レートが一気にボリバル安になり、ボリバル価値の下落を受けて、2017年後半からインフレが急激に進行した。

しかし、前述のような対策の甲斐もあり、2019年から徐々にインフレは収束し始めた。

直近2024年5月のインフレ率は先月比1.5%増。24年1～5月の累積インフレ率は7.8%。23年6月～24年5月までの12カ月分のインフレ率は59.2%となっている。

グラフの通り、IMFは2024年のインフレ率を160%と予想しているが、この予想は下方修正されることになりそうだ。

2018年当時、国民のボリバル通貨に対する信頼は地に落ちていたが、現在のベネズエラではボリバル通貨の信頼は回復しつつある。

なお、通貨当局は2021年から徐々に預金準備率を引き下げており、2024年5月現在の預金準備率は73%となっている。

「インフレが落ち着き、ボリバルの使用が増えたこと」「インフレが落ち着き、中長期的に融資が検討できる環境になったこと」「預金準備率が下がり、銀行が以前より融資を行うことが出来るようになったこと」などがボリバル融資増加の背景にある。

「ベネズエラ銀行連合」の José Grasso Vecchio 役員によると、24年3月のボリバル融資総額は、ドル建てで前年比82%増の約16.2億ドル。4月以降もボリバル融資額は増加傾向にあると説明している。

クレジットカード利用者は約1/3

ベネズエラのボリバル融資に関する背景説明はここまでにして、以下では「Ultimas Noticias」が行ったアンケート調査について紹介したい。

同アンケートの調査期間は、2024年5月12日～16日。調査対象者数は1,233人である。

最初の質問は「現在、あなたはクレジットカードを使用できますか?」というもの(下図参照)。

結果は「はい」が30.8%

「いいえ」が69.2%

現在も使用できない人は多いようだ。



利用者の半数超の利用限度額は25ドル以下

2つ目の質問は、「クレジットカードが使用できる」と回答した人を対象にしたもので、質問は「カードの利用限度額はいくらですか?」というもの。

結果は

「Bs. 1000未満」が51.3%

「Bs. 1000～2000」が5.8%

「Bs. 2000～3000」が10.8%

「Bs. 3000～4000」が14.7%

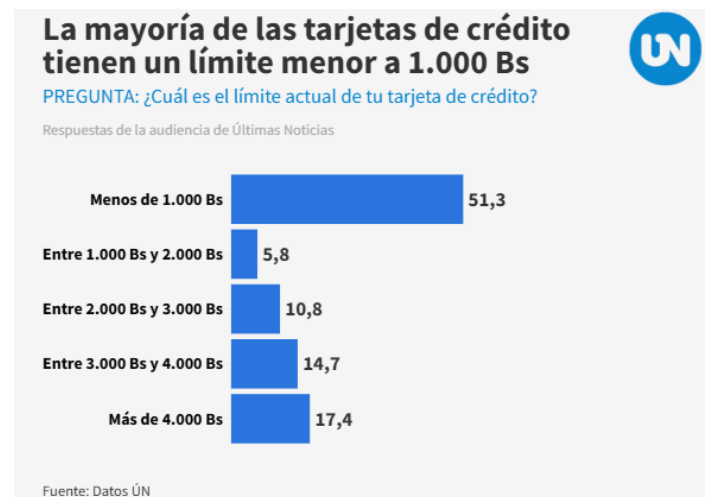
「Bs. 4000超」が17.4%

だった。

現在の為替レートは1ドル約Bs.40なので、ドルに換算するとBs.1000≒25ドルという理解でいいだろう。

つまり、カードを使用可能な人の半分超は、25ドル未満がクレジット限度額ということになる。

一方で、次に多かった回答(17.4%)は、Bs.4000(100ドル)超だったというのは興味深い。



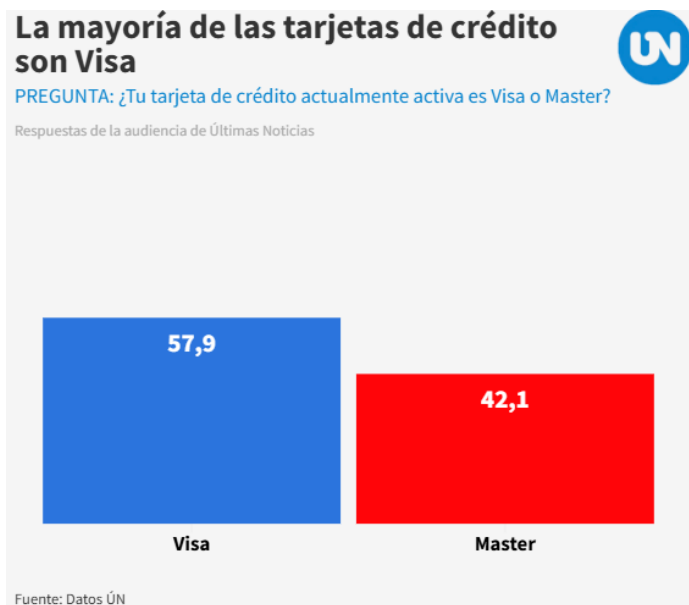
利用者の約4割は利用限度額が引きあがった

次の質問は、カード利用者を対象としたもので、「Visa/Masterのどちらを使用しているか?」という質問。

結果は

「Visa」が57.9%

「Master」が42.1%



また、「最近、あなたが利用している銀行はクレジットカードの利用限度額を引き上げましたか?」という質問。

結果は

「はい」が42.4%

「いいえ」が57.6%

つまり、「10人に約4人は利用限度額が引きあがった」ということになる。

10人に8人は外貨よりボリバルを使用

次の質問は全回答者を対象にしたもので、「ボリバルと外貨のどちらを多く使用しますか?」というもの。

結果は

「ボリバル」が81.3%

「外貨」が18.7%

ボリバルの利用が外貨を大きく上回っていることが分かる。

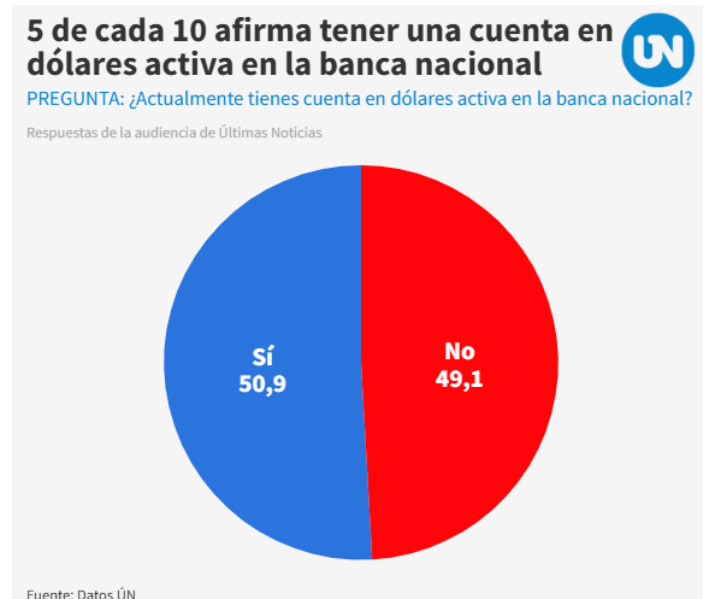
最後の質問は「ベネズエラ国内にドル口座を持っていますか?」というもの。

結果は

「はい」が50.9%

「いいえ」が49.1%

回答者の半分超がベネズエラ国内にドル口座を保有していることになる。



以上